答　辞

春らしい暖かな日差しに包まれ、新たな季節の訪れを感じる本日、私たちは卒業式を迎えることができました。

本日は、私たちの為に、先生方、保護者の皆さまにお集まりいただき、このような卒業式を挙行していただきまして誠にありがとうございます。

今振り返ってみると、職藝学院での二年間はあっという間に過ぎていったように感じます。

一昨年の四月、私は日本の伝統的な家を建てられるようになりたくて、また、その良さを知りたくてこの学校に入学しました。

入学当初、私は興味のあることを学べる喜びに日々、ワクワクしていました。建物の構造を学んだり、植物概論では、森を歩いて木の葉をスケッチしたり、図面の書き方を教わって設計したりと、いろいろな事を教わりました。初めての実習はノミやカンナを研ぐことから教わりました。とにかく「研ぎが大事だ」と言われ、そのことは実際に加工をするうちに身にしみて分かりました。

学校での生活に慣れてきた頃、私はだらけてきていました。当初の志を忘れて過ごしている時がありました。そんな時に、新井棟梁がガツンと叱って下さったことがすごく心に残っています。これから頑張ろう、気を引き締めよう、そう思いました。

二年生になると学外での実習が増え、いろいろな現場に行く機会をもらいました。炎天下の中、お茶室を建てたり、文化財を直したりと、いろいろな事を経験しました。はじめの頃、私は周りを見ることが苦手で、次に何をすればいいのか分からないことも多かったのですが、いろいろな人と関わって経験するうちに、今では「わからないことは聞く」、「周りを意識して見る」ということが身についてきたと思います。

また、二年生の最後の卒業制作では、小さな小屋を一人一つずつ作りました。正直、もっと時間をかけて丁寧に作れば良かったと、反省は残りましたが、自分で一つのものを作れたことは、「自分はこれだけできる」という自信になりましたし、「もっとこうしたい」という次の目標が目に見えて分かりました。

私にとって、大工・造園・家具・建具コースの仲間たちと出会えたことも大きな出来事でした。同級生には、自分がこれまでに関わったことがないような人がたくさんいました。騒がしいいけれど、いつも周りに目を配っている人もいましたし、自分の気持ちを素直に言い過ぎじゃないかと思う人いました。他にも、こちらに興味がなくても自分の好きなものを力説したり、自分の価値観をどっしり持っていたり、自分に負けず頑張っていたり、そういうところを見習いたいなと思うことがたくさんありました。そんな仲間たちと関われたことで自分の中にあった常識が大きく変わりました。

また、先生方にも大変お世話になりました。図面がなかなか仕上がらなかった時もありました。勝手に一人でくじけそうになっていた時もありました。たくさん迷惑をかけました。でも、いつも根気よく見てくださってありがとうございました。先生方に教えていただいたこと、叱ってもらったことを胸に精進いたします。

それから、この学校に通わせてくれた母さん、「あんたのしたいことをしられ」と言ってくれてありがとう。そんな母さんにささえられ、今日まで学ぶことができました。

四月から私たちは社会人となります。新たな場所でもくじけずに、技術を磨き続けて成長していきたいと思います。

最後になりましたが、本日ご列席いただきました棟梁方、先生方の今後のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたしますとともに、職藝学院の益々のご発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和二年三月二〇日

専門学校職藝学院　　卒業生代表　　羽馬　玖実